



TICAD IV 本番

市民社会アクセス・パスについての緊急要望

外務省アフリカ審議官 木寺昌人殿

本番が来週に迫る中、日夜アフリカ開発の課題に取り組んでおられることに敬意を表します。

5月16日(金)にNGO担当官からTICAD IV本会議場へのアクセス・パス数について、「全体会合では3枚、分科会については8枚が認められ、これは海外NGOのパスも含んだ数」との通達を受けました。さらに、5月19日(月)、アフリカ第二課長の岡田課長より運営委員にご連絡いただき、「一国際機関につき、3枚のパスしか出していないので、NGOにも3枚となっている」との連絡を受けました。

なお、前回TICAD IIIにおきましては、30名の日本NGO代表に対して10枚のパスが支給された他、アフリカ・国際NGOは全員がパスをもらっています。TICAD IIIからTICAD IVにいたるまでの5年をかけた長いプロセスに市民社会は関わり、歴代審議官に市民社会参加は後退しない、と力強いお言葉をいただいております。

ご承知のとおり、TICAD IV・NGOネットワーク(TNnet)と外務省は、1年間にわたって2ヶ月に1度話し合いを重ね、パス問題も含め議論や調整を深めて参りました。しかしながら、日本・アフリカ・国際NGOを、一緒にカウントして、「一国際機関」に準じることも、「3枚のパス」しか発行しないということも、話されたことはありませんでした。

私たち、日本の市民社会は、TICADがアフリカの人びとにもっと知られること、世界で最も厳しい課題を乗り越えるために奮闘しているアフリカの人びとのそばにいるアフリカ市民社会のTICADへの参加を広く呼びかけてきました。今回来日されるNGOの方々は、このような呼びかけに応え、アフリカ各国内で献身的にTICADの説明を行い、一国に留まらないアフリカ全体の市民社会ネットワークを構築しながらTICADプロセスへの参画を実践してきた方々です。今回の通達は、これらのアフリカ・国際NGOの招待者の大きな失望と大きな反発を招きつつあります。

そこで、最悪の事態を回避するためにも、以下要望いたします。

1. 日本 NGO のパス数については、61 の日本 NGO 参加者がいることを踏まえ、さらには前回より後退しないというお約束に基づき、前回同様 10 の確保をお願いいたします。ただし、ホスト国の市民社会の一員として、ある程度調整することは可能です。
2. アフリカ・国際 NGO は、TICAD 共催者や日本政府の招待によって来日いたします。主催者の責任として、これらの海外 NGO については、全員がアクセス・パスをもてるようお願いいたします。

なお、会場のキャパシティが逼迫しており、主催者としても非常に難しい調整を迫られているということについては、岡田課長からも説明があり十分承知しております。上記の要望は、大前提ではありますが、時間も逼迫している現状を鑑み、アフリカ・国際 NGO が納得するかどうかは分かりませんが、TNnet として下記の調整について協力する用意があることについて予めお伝えいたします。

日本 NGO (35 団体 61 名) について：

- 全体会議：日本 NGO を一機関として 3 枚
- 分科会：日本 NGO を一機関として 2 枚×4 分科会

TNnet が推薦したアフリカの NGO10 団体について：

- 全体会議：アフリカ NGO を一機関として 3 枚
- 分科会：アフリカ NGO を一機関として 2 枚×4 分科会

TNnet が推薦した国際 NGO10 団体について：

- 全体会議：国際 NGO を一機関として 3 枚
- 分科会：国際 NGO を一機関として 2 枚×4 分科会

なお、共催者が推薦し、来日するアフリカ・国際 NGO (6 団体 7 名) については、上記のケースを参照しながら推薦・招待した共催者が責任をもって調整を行うべきと考えます。

本件への迅速なご対応と解決について、お願い申し上げます。

2008 年 5 月 20 日
TICAD IV・NGO ネットワーク (TNnet)

付記：来日するアフリカ・国際 NGO への最終的なパスの説明につきましては、主催者であり決定を下される外務省より説明いただくようお願い申し上げます。